

長崎県中山間ふるさと活性化基金

1. 事業の目的

中山間地域が持つ国土保全等の多面的機能は、健全な農業生産活動を通じて農地や水路等が維持される中で発揮されてきた。しかし、近年では多くの地域で、過疎化、混住化、農家の高齢化に伴い、農地や施設の適切な管理が難しくなっている。

中山間ふるさと活性化基金は、このような課題に対し中山間地域における農地や施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るため、地域住民活動を推進する人材の育成、農地や施設の利活用及び保全整備等の促進に対する支援を目的とする。

2. 令和元年度の実施状況

(1) 県民への情報発信

- ・都市住民へ農業農村について関心を持ってもらうこと及び農村の地域住民に対しては地域の良さを再発見してもらうことを目的に、一般向け情報誌を県内各市町、振興局等の行政機関窓口及びJA等390箇所へ計1,560部を配布。
- ・農業農村が持つ大切な役割を多くの人に知ってもらい、関心を高めていただくために、長崎県土地改良事業団体連合会と共催で「長崎の農業・農村写真コンテスト」を開催し、入賞作品については、各種農業関係イベント会場で展示を行った。
特に今年度は、昨年度に引き続き県庁ロビーでの受賞作品の展示会(R2.3.6～R2.3.10)を行う予定にしているとともに、新たな取り組みとして「学生部門」を新設し、若者への関心を高める試みを行った。

第12回 長崎の農業・農村写真コンテスト

作品

募集部門①
【農村と人の営み部門】

募集部門②
【農村景観部門】

新設 募集部門③
【学生部門】

10/31(土)まで
応募締切
(当日消印有効)

TEL 095 2 101

長崎県土地改良事業団体連合会 長崎県

(2) 集落保全活動モデル地区支援による地域住民等への普及・啓発

・農地や土地改良施設の保全に対する住民意識の向上及び保全活動の必要性等の普及・啓発のため、県内の中山間地域等計5地区の地域住民活動等へ支援を行った。(表-1)

表-1 令和元年度集落保全活動モデル地区支援一覧(R1.12 末時点)

地区名	事業費予算 (千円)	主なイベント等の概要
大中尾棚田(長崎市)	300	「大中尾棚田火祭り」
木場棚田(川棚町)	260	「木場棚田だんだんまつり」ウォークラリー等
鬼木棚田(波佐見町)	470	「鬼木棚田まつり」案山子コンテスト等
土谷棚田(松浦市)	800	「土谷棚田火祭り」
春日地区(平戸市)	443	加工品パッケージ作成
合計5地区	2,273	

大中尾棚田



大中尾棚田



木場棚田



鬼木棚田



鬼木棚田



土谷棚田

【雨天(台風)により中止】

春日棚田

【現在かんころを使ったお菓子のパッケージ作成中】

(3) 集落保全活動モデル地区支援の見直しについて

- ・これまで集落保全活動モデル地区としてイベント等への支援を行っており、棚田まつり等は年間のイベントとして地域に定着した。各地域の取り組みにより、都市住民等への中山間地域の多面的機能の効果を広くPR・周知できた効果は大きい。地域に協議会の設立等によりイベント等実施体制確立され、さらにイベントの準備がきっかけとなり、地域にある農地等の維持・管理の必要性に対する意識向上に繋がっている。等

の成果が上がっているものの

- ・地域の取り組みや販売農産物等周知方法がイベントに限定されている。棚田百選外等に続く横展開が進まなかった。
 - ・集落住民の高齢化、担い手不足によるイベント継続困難の問題が起きている。等
- に対応すべく今回新しい取り組みを行う見直し(参考資料1～4参照)を行った。

(4) 長崎県ふるさと・水と土指導員の研修及び活動支援

- ・情報交換と知識の修得を図るため、長崎県ふるさと・水と土指導員(以下「指導員」という。)を全国研修会等へ派遣した。(表-2)

表-2 指導員の全国研修会への派遣状況(令和元年度)

研修名	期間	開催地	派遣人数
「田んぼの学校」指導者育成研修	7/12～13	静岡県	4人
令和元年度ふるさと水と土基金全国研修会	9/12～13	東京都	1人
第24回全国棚田(千枚田)サミット	10/13～14	山口県	4人

- ・指導員の資質向上、情報交換等を図るため、県庁で R2.2.6～7 に県内研修会を開催(指導員延べ16名参加)。外部講師の講演や県内指導員の活動事例発表等を実施。
- ・指導員の活動に伴う万一の事故発生に備えるため、傷害保険及び賠償責任保険に継続加入。

(5) 県内棚田サミット開催による棚田保全活動の情報共有化

- ・H14年度から「日本の棚田百選」県内認定6地区の持ち回りで「長崎県棚田保全代表者会議」を毎年開催しており、各地区棚田保全活動における情報共有の場となっている。
- ・R1年度は、清水棚田を擁する雲仙市千々石町において開催(参加者57名)。
- ・R2年度は、日向棚田を擁する川棚町木場地区において開催予定。

3. 指導員の認定状況

- ・指導員は、地域住民活動の活性化を図るため、土地改良施設や農地の利活用、都市住民との交流活動、普及・啓発活動などの地域住民活動に対して、指導・助言等を行う者で、市町の推薦に基づき県で認定している。
- ・R1年12月現在で、県下21市町のうち、13市町で20名を認定。(表-3)

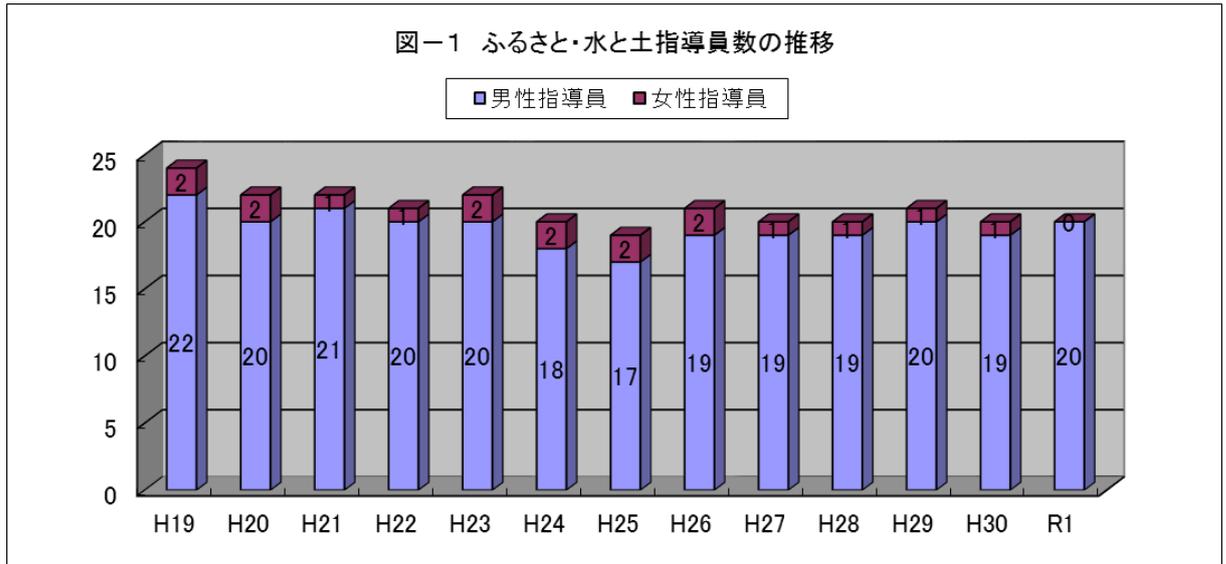
表-3 市町別ふるさと水と土指導員数(令和元年度)

市町名	指導員数	「日本の棚田百選」認定地区	「長崎県のだんだん畑十選」認定地区
長崎市	1	大中尾棚田	宮摺
佐世保市	1		勝負越
島原市			
諫早市	1		飯盛南部、野川内
大村市			
平戸市	1		
松浦市	1	土谷棚田	
対馬市	1		青海
壱岐市	1		
五島市	2		上崎山
西海市	1		
雲仙市	2	清水棚田	椎木川、辺木・小竹木
南島原市	3	谷水棚田	津波見
長与町			木場、長与岡北
時津町			
東彼杵町			坂本
川棚町	2	日向の棚田	
波佐見町	2	鬼木棚田	
小値賀町			
佐々町			
新上五島町			
計	20(0)		

※()は女性の人数で内数

- ・指導員の構成内訳は次のとおり。

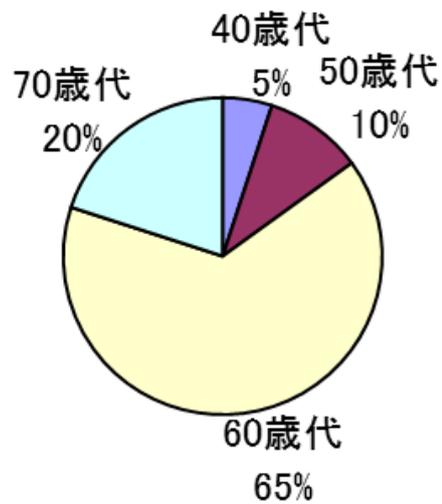
【男女比】 男性20名(100%)、女性0名(0%)である。(図-1)



【年齢構成】

40歳代 1名(5%)、50歳代 2名(10%)、60歳代13名(65%)、70歳代 4名(20%)
となっており、平均年齢は63歳で、最年少は44歳、最高齢は74歳である。(図-2)

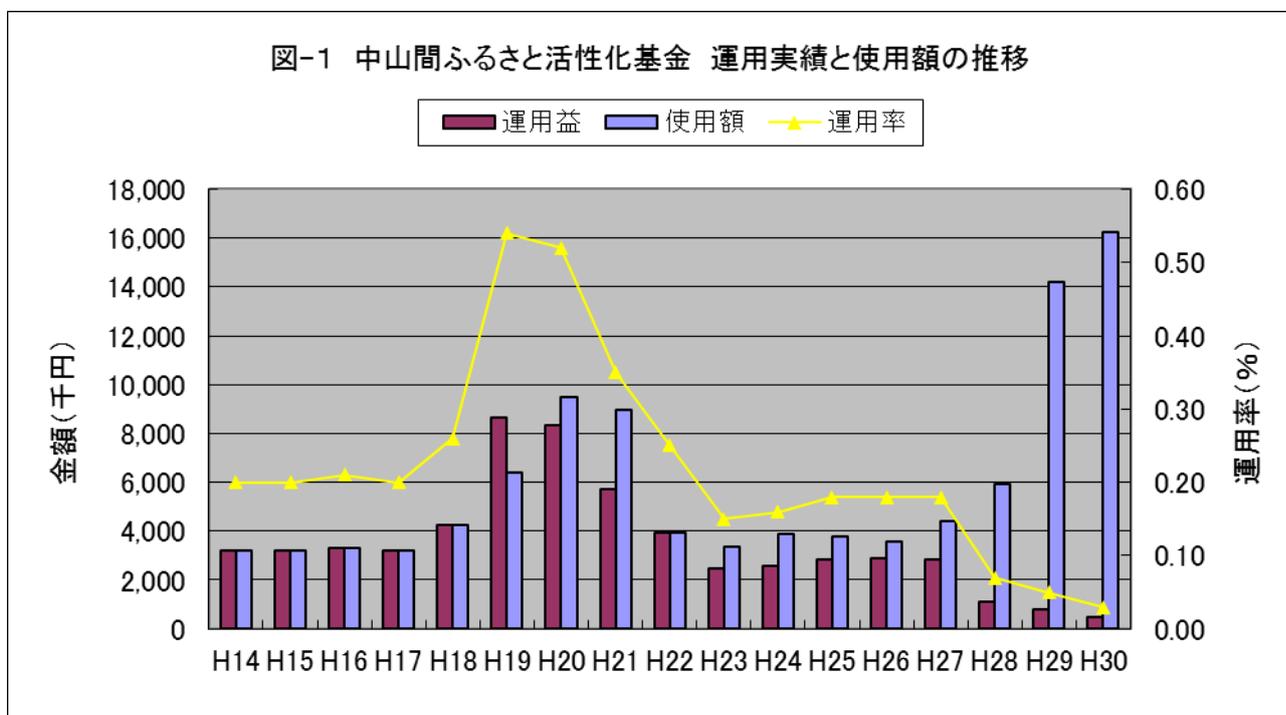
図-2 ふるさと水と土指導員の年齢構成



4. 中山間ふるさと活性化基金の運用状況

(1) 運用実績と使用額の推移

- ・H15年度からH30年度における運用実績は、運用率0.03%～0.54%の低金利状況。H30年度の運用率は0.03%。
- ・H20年度から基金元本を取り崩し、活動経費へ充当している。(図-3)
- ・基金の運用については、県会計課で一元運用管理。



H30年度末現在の基金元本残高は、1,577,781千円(約16億円)

基金元本の取崩し額は、H26年度688千円、H27年度1,602千円、H28年度4,842千円、H29年度13,413千円、H30年度15,749千円

基金元本の取崩しは、低金利で運用益が少ない状況にあっても必要な事業が行えるよう、基金元本額の一定基準割合まで認められている。

(参考)基金使用額は、H26年度3,578千円、H27年度4,433千円、H28年度5,927千円、H29年度14,226千円、H30年度16,244千円